

別添 4

乳児～成人の好酸球性消化管疾患、良質な医療の確保を目指す診療提供体制構築のための研究

研究分担者 石原 俊治 島根大学医学部内科学講座（内科学第二）教授

研究要旨

好酸球性消化管疾患（eosinophilic gastrointestinal disorders; EGID）が本邦で増加していること、疾患が難治性で診療に苦慮することなどから、EGIDs のさらなる啓蒙や情報収集、さらに診断や治療の診療体制構築が急務である。研究分担者は、EGIDs 診療体制構築（成人患者を対象）を担当し、EGIDs 診療に取り組むことができる医療機関の選定をおこなった。内視鏡検査や病理組織検査によって EGIDs の診断が正確におこなえることを条件とし、EGID の診療体制を担う医療機関として、2021 年度に 47 都道府県（各県 2～5 施設）において 116 施設を選定した。2022 年度は、選定した医療機関を国立成育医療センターの「好酸球性消化管疾患 患者さん用情報 WEB サイト」上で公開し、一般の方のみならず、医療関係者の閲覧を可能とした。今後は、WEB サイトを通じた情報提供の有用性を検証し、改善点を考慮する必要がある。

A・研究目的

本邦において 2000 年頃から増加している好酸球性消化管疾患（eosinophilic gastrointestinal disorder; EGID）は消化管に好酸球浸潤を主体とした炎症が持続する結果、様々な消化器症状や機能異常をきたす疾患の総称である。新生児から乳児に多い「食物蛋白誘発胃腸炎」、幼児から成人に多い「eosinophilic esophagitis（EoE）」、「eosinophilic gastroenteritis（EGE）」に分類される。EoE は嚥下障害やつかえ感などを主症状とし、一方、EGE は嘔吐、下痢、蛋白漏出による栄養障害などが生涯にわたる難治性疾患である。

最近、研究班が全国の 10000 医療機関を対象におこなった調査では、2906 施設から回答が得られ、最終的に 786 人の EGID 患者の臨床像を詳細に解析し報告した（*J Allergy Clin Pract* 2021）。

これまでの調査や研究成果から、EGID が本邦で増加していること、疾患が難治性で診療に苦慮することなどから、EGID のさらなる啓蒙や情報収集、さらに診断や治療の診療体制構築が急務であることは言うまでもない。そこで、本研究では、①EGID 情報センター Web 公開（患者、医師向け）、②EGID

レジストリープロジェクト、③EGID 診療体制構築、④Minds 準拠ガイドラインの 4 つを主目標として研究を遂行していくこととした。

B.研究方法

研究分担者（石原）は、①EGID 情報センター Web 公開（患者、医師向け）、③EGID 診療体制構築（成人患者を対象）と WEB 公開を担当した。2021 年度は「成人を対象とした EGID 診療体制構築」を中心に研究を遂行し、①消化管内視鏡検査が適切におこなわれ正確な診断が可能な医療機関、②食物除去に習熟した医療機関を念頭に置いて、診療可能施設として 47 都道府県（各県 2～5 施設）116 施設を選定した。

2022 年度は、選定した 116 施設について、EGID 情報センター Web サイトに公開（患者、医師向け）することを目標とした。

C.研究結果

診療可能施設として選定した 47 都道府県（各県 2～5 施設）における 116 の医療機関を、国立成育医療センターの「好酸球性消化管疾患 患者さん用情報 WEB サイト」上で「診療が行える病院」として公開し、一般の方のみならず、医療関係者の閲覧を可能とした。

D. 考察

WEB上で「診療が行える病院」として公開した116施設については、炎症性腸疾患などの診断を専門的におこなっている医療機関が中心であり、内視鏡検査や病理組織を用いたEGIDの診断は可能と考えられる。しかし、「成人を対象とした食物除去に習熟した医療機関」は本邦では極めて少なく、今後の課題と考えられた。

本邦で増加傾向にある成人のEGIDについては徐々に認識されつつあり、私共はEGIDの臨床像や内視鏡像に関する総説を積極的に執筆し、疾患の存在と特徴のさらなる啓蒙に努めてきた

E. 結論

EGIDs診療体制構築（成人患者を対象）を担う医療機関を各県ごとに選定し、全国116施設を「好酸球性消化管疾患 患者さん用情報WEBサイト」上で公開した。

F. 研究発表（2022年4月～2023年3月）

1. 論文発表

- Okimoto E, Ishimura N, Adachi K, Kinoshita Y, Ishihara S, Tada T. Application of convolutional neural networks for diagnosis of eosinophilic esophagitis based on endoscopic imaging. *J Clin Med* 11(9): 2529, 2022.
- Dellon ES, Ishihara S (90人, 30番目), Ishimura N (90人, 31番目), Nomura I (90人, 52番目), et al. International consensus recommendations for eosinophilic gastrointestinal disease nomenclature. *Clin Gastroenterol Hepatol* 20(11): 2474-2484, 2022.
- 石村典久：胃炎のマスターラーニング 好酸球性胃炎. *Helicobacter Research*, 26 (2) : 8-9, 2022.
- 石原俊治, 沖本英子, 石村典久：好酸球性食道炎と好酸球性胃腸炎 好酸球性胃腸炎の治療. *消化器内視鏡*, 34 (8) : 1397-1402, 2022.
- 石村典久：好酸球性消化管疾患の分類と動向. *消化器内視鏡*, 34 (8) : 1328-1335, 2022.

- 石原俊治, 石村典久：好酸球性消化管疾患に関する話題. *消化器内科学レビュー*, 23 : 89-94, 2022.
- 石原俊治, 石村典久：炎症性疾患 慢性炎症性疾患 好酸球性小腸炎. *日本臨床*, 80 (増刊7 小腸疾患) : 434-438, 2022.
- 石村典久：好酸球性消化管疾患 診断と治療の最新知見. *SRL宝函*, 43 (2) : 13-21, 2022.
- 石村典久, 石原俊治：図説「胃と腸」画像診断用語集 2022 好酸球性胃腸炎. *胃と腸*, 57 (5) : 671, 2022.
- 石村典久, 沖本英子, 柴垣広太郎, 長野菜穂子, 石原俊治：欧米と日本における好酸球性食道炎の臨床像の類似点と相違点. *Gastroenterological Endoscopy*, 64 (4) : 1048-1061, 2022.
- 石村典久：好酸球性食道炎の治療と予後. *消化器内科*, 4 (5) : 68-75, 2022.
- 石原俊治：好酸球性胃腸炎(EGE). *消化器・肝臓内科*, 11 (2) : 144-149, 2022.
- 石原俊治, 石村典久：GERDにおいて鑑別すべき疾患-好酸球性食道炎の話題を中心に- *日本消化器病学会雑誌*, 120 (2) : 153-161, 2023.

2. 学会発表

- 石村典久：好酸球性消化管疾患（EGID）の内視鏡診断と治療. 第32回日本消化器内視鏡学会中国支部セミナー, 松江, 2023年1月9日

G. 知的所有権の取得状況

- 特許取得
特になし
- 実用新案登録
特になし
- その他
特になし